



柏市地域健康福祉計画策定 市民ワークショップ 実施結果報告書

2024年3月
柏市



目次



1. ワークショップの概要
 - 1-1 実施の目的
 - 1-2 実施内容
 - 1-3 活用したツール（ローカルダイアログ）
2. ワークショップの経過
 - 2-1 当日の流れ
 - 2-2 各グループの意見結果
 - 2-3 会話の記録
 - 2-4 当日の様子
 - 2-5 参加者アンケート結果
3. ワークショップの関連資料

1-1 実施の目的

▼市民ワークショップの目的

- 1) 地域健康福祉計画策定に向けたキーワードの抽出する。
- 2) 参加した市民が地域の健康福祉につながる活動が自分にも出来ると感じ、重層的支援体制整備事業における地域づくり事業（柏ワガママLab等）への参加につながる場とする。

<プログラム>

- ①導入・・・地域健康福祉計画の策定について（福祉政策課）
- ②知る活動・・・有識者講和
- ③創る活動・・・ローカルダイアログを使った対話ワーク（ビジョン、現状についての把握）
- ④まとめ・・・レゴ@シリアスプレイ@を使ったワーク（個人のありたい姿の抽出）



1 - 2 実施内容

実施内容

市民のあるがままの声を聴きながら、策定する計画と市民の現状が一緒か、またはズレがあるかを確認する場として実施した。当日は市民対話カードゲーム「ローカルダイアログ」を活用し、レゴ@シリアスプレイ@認定ファシリテーター（計画策定受託事業者）が、参加者が自分が感じている柏市の現状を忖度なく語れるよう工夫をして実施した。

開催

日程 : 1月21日（日）

時間 : 9:30～12:30

開催方法 : ラコルタ柏

参加者 : 17名 <柏市在住の一般市民（幅広い層）を対象に実施>



1-3 活用したツール（ローカルダイアログ）

ローカルダイアログは、自分たちが住みたいまち、暮らしたいまちの姿を考え、カードを使って対話しながら、まちづくり戦略を作っていくワークショップです。

対話しながらゲームをするように進めることができるので、子どもから大人まで多様な世代がまちづくりに参加できます。従来のアンケート（住民意識調査）や住民参加型ワークショップでは、まちづくりに意欲的な人の意見をデータ化しにくいことや、その後の政策策定まで住民が主体的に関わる機会が少ないという課題がありました。

ローカルダイアログでは、**行政の結論ありきで政策を作るのではなく、対話を通じて地域住民が政策づくりに主体的に関わり**、対話のデータをまちづくりに活かすことで、自治体が主導で行なっていた「一方通行」の政策策定を住民が参加して行う「共創型」に転換し、持続可能なまちづくりを推進していきます。



2-1 当日の流れ

時間	スケジュール	目安	詳細
9:30	開会	1min	・ 柏市福祉政策課
9:31	あいさつ	5min	・ 柏市福祉部長
9:36	主旨説明	1min	・ 市民ワークショップについての主旨説明 →基本理念 →なぜ、健康福祉計画策定の背景 →データを用いて柏市の現状の共有 →計画を作成して終わりにしたくないという意思表示
9:46	関係者紹介	4min	・ ワークショップの進行担当の紹介（受託事業者） ・ スタッフ紹介
9:50	アイスブレイク	3min	・ ライフキネティックで体と脳の準備運動
9:53	説明	3min	・ レゴブロックを使ったワークの説明
9:56	自己紹介	20min	①タワーをつくる（個人ワーク） ②自己紹介（名前）をしながら自分のこだわりポイントの説明をする（グループワーク） ③普段の活動をブロックを使って作成して自己紹介する
10:16	ワーク①	10min	①自分が考える福祉をブロックを使って作品を作る ②グループで共有する
10:26	休憩	5min	
10:31	ワーク②	70min	ローカルダイアログを活用したワークショップ
11:41	休憩	5min	
11:46	ワーク③	20min	①レゴブロックを使って持続可能な福祉を作品として作る →たった1人を想像して作品を作るよう意識させる ②作品名と説明をワークシートに書く ③グループで共有する
12:06	ワーク④	10min	①グループメンバーの作品を合わせたストーリーを作成する
12:16	共有	10min	・ 全体に共有する
12:26	おわりに		・ 柏市福祉政策課
12:30	終了		

2-2 各グループの意見結果

活用したビジョンカード

1



おかげさま・お互いさまの
気持ちで自然と声掛けや
助け合いがある地域

3



地域の住民が主体性を持って
地域の活動やまちづくりに
参加し合う地域

4



からだも心もいきいきと
健康に過ごせる地域

5



子どもから高齢者までが
幸せで豊かな生活が送れる地域

9



時代の変化に適応していく
持続可能な地域

11

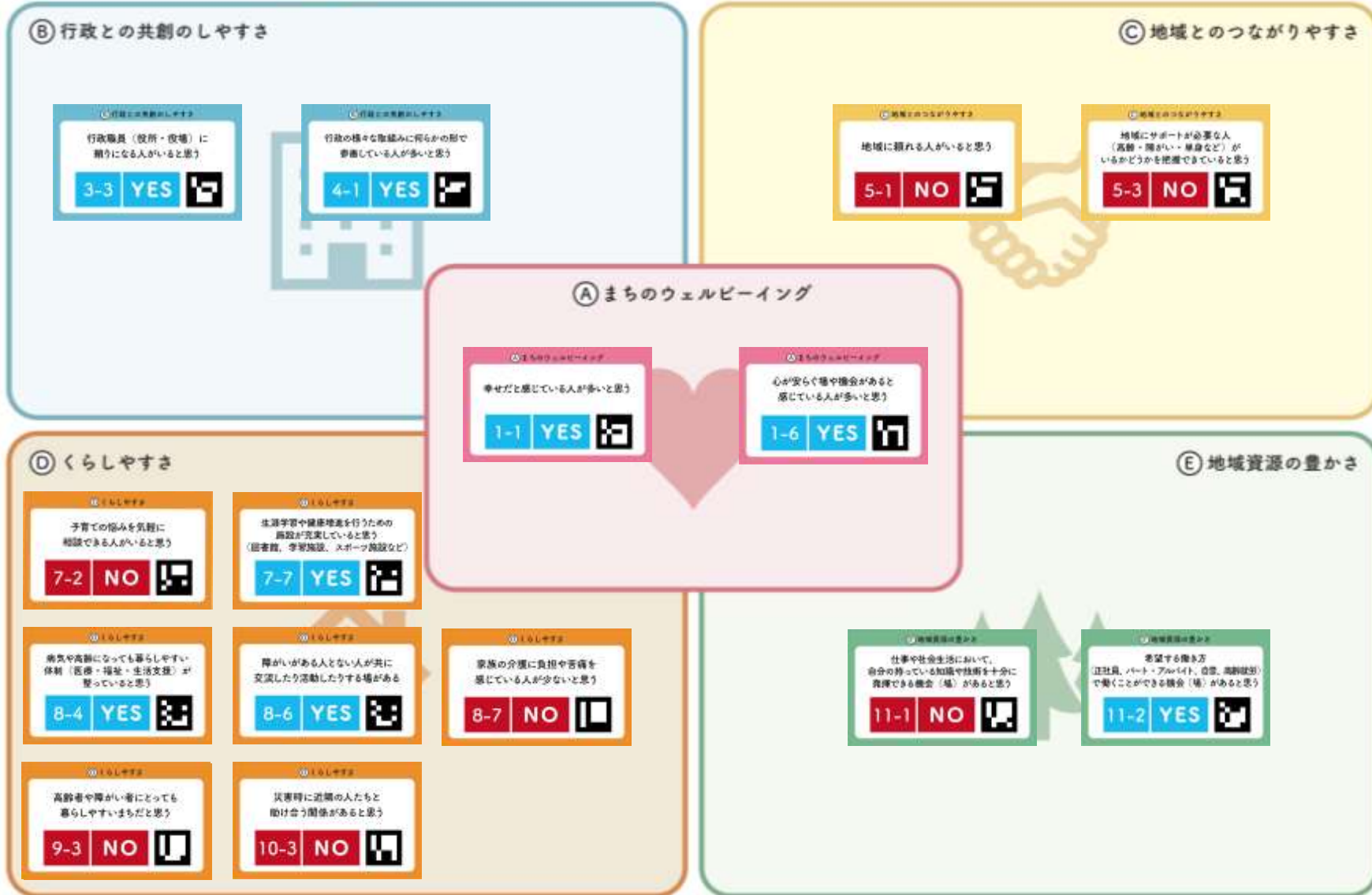


地域内外問わず多様な人と
関わりながら賑わいのある地域

2-2 各グループの意見結果

Aチームのワーク結果

ローカルダイアログマップ

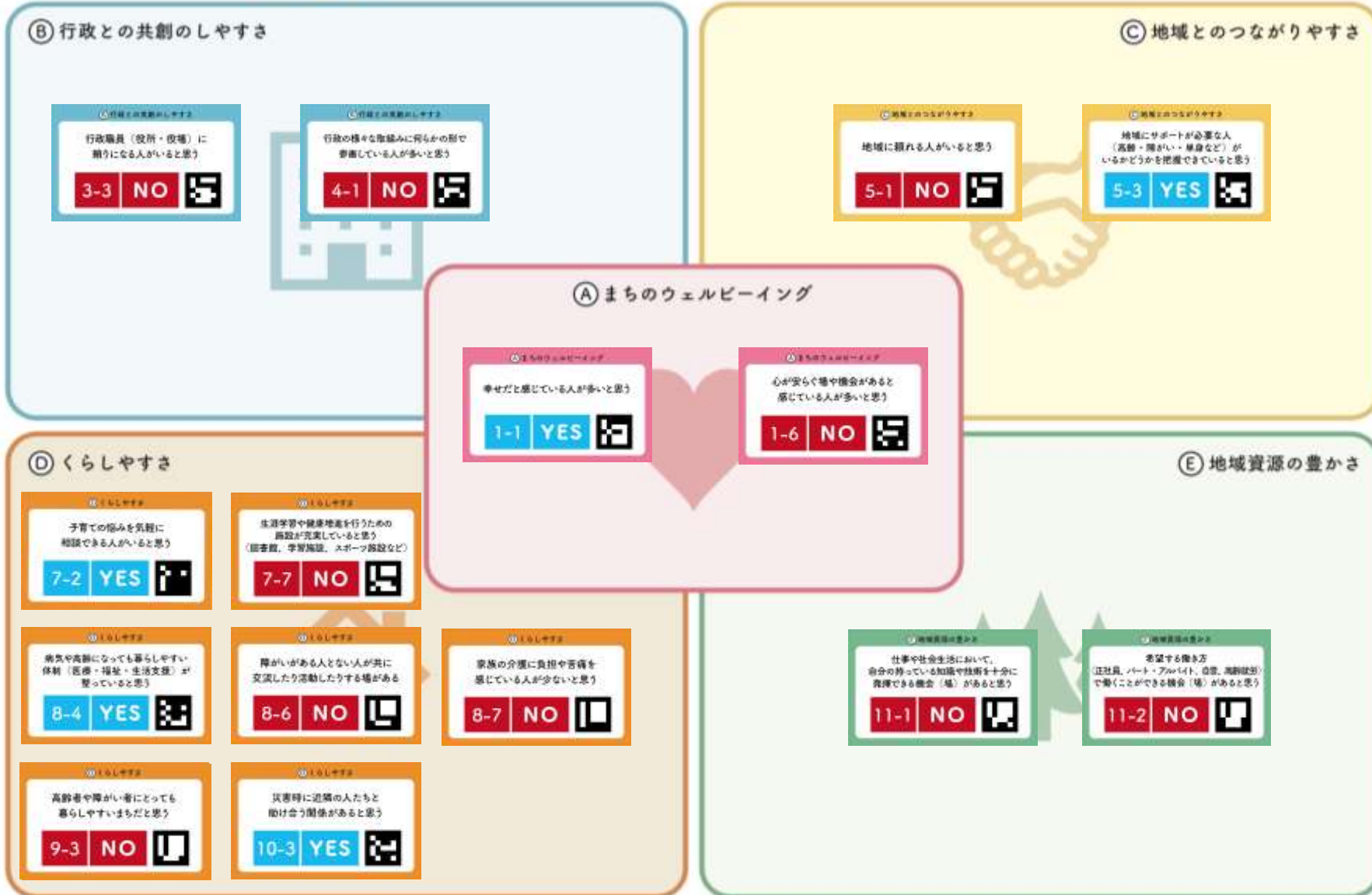


- 1  おかげさま・お互いさまの気持ちで自然と声掛けや助け合いがある地域
- 3  地域の住民が主体性を持って地域の活動やまちづくりに参加し合う地域
- 5  子どもから高齢者までが幸せで豊かな生活が送れる地域
- 11  地域内外問わず多様な人と関わりながら賑わいのある地域

2-2 各グループの意見結果

Bチームのワーク結果

ローカルダイアログマップ



4



からだも心もいきいきと健康に過ごせる地域

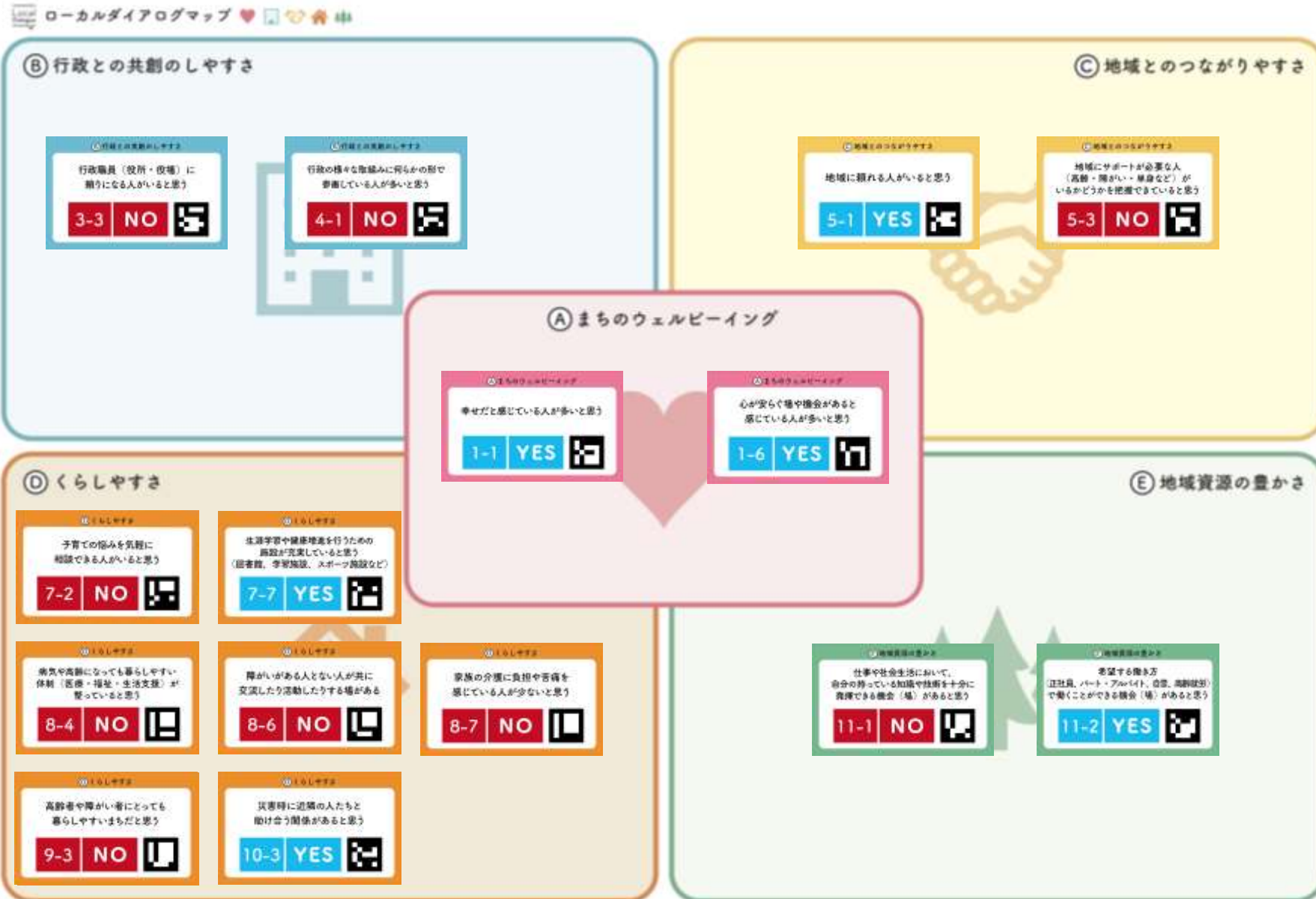
5



子どもから高齢者までが幸せで豊かな生活が送れる地域

2-2 各グループの意見結果

Cチームのワーク結果



5

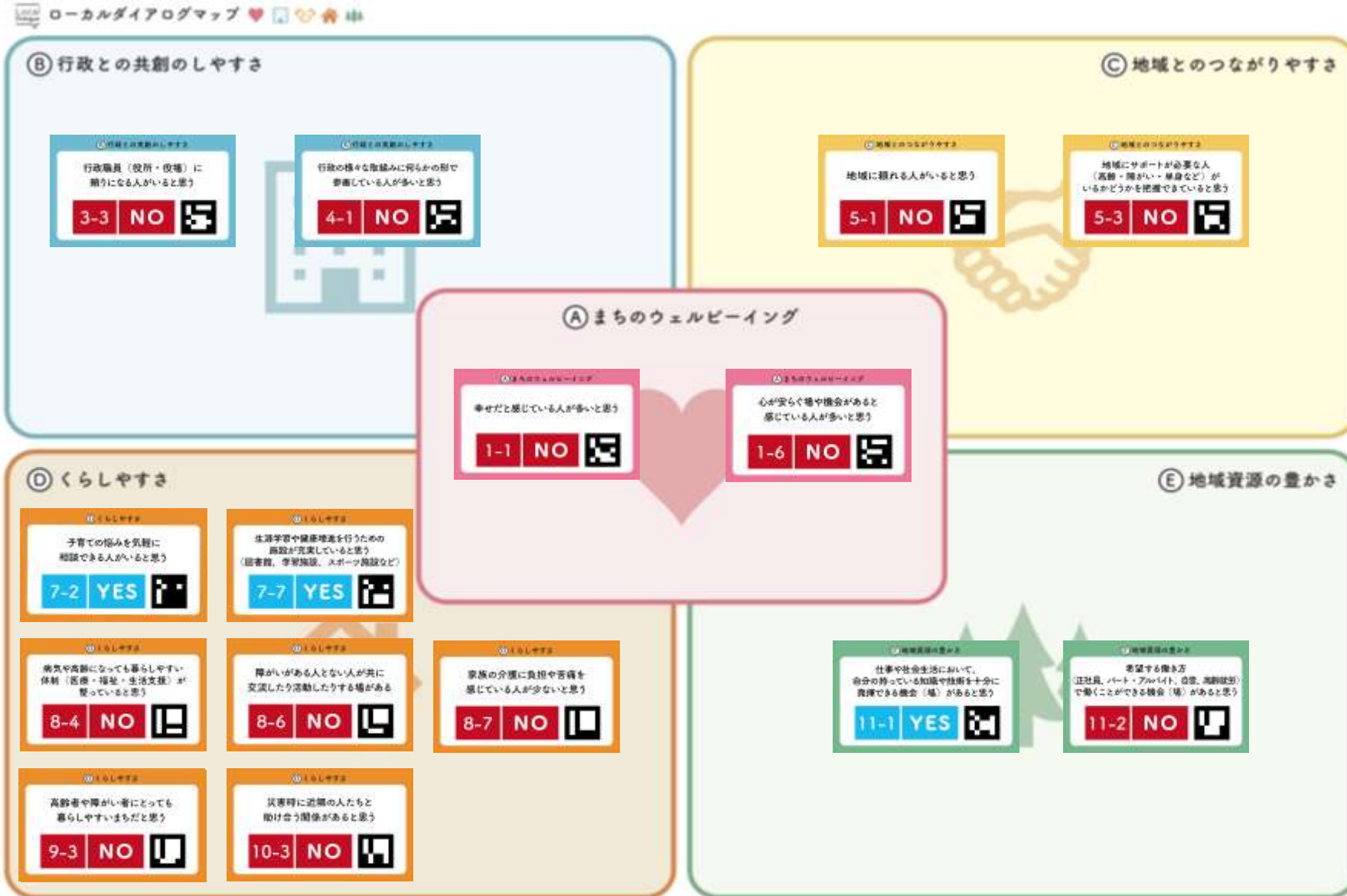
子どもから高齢者までが
幸せで豊かな生活が送れる地域

11

地域内外問わず多様な人と
関わりながら賑わいのある地域

2-2 各グループの意見結果

Dチームのワーク結果



1

おかげさま・お互いさまの気持ちで自然と声掛けや助け合いがある地域

5

子どもから高齢者までが幸せで豊かな生活が送れる地域

11

地域内外問わず多様な人と関わりながら賑わいのある地域

2-2 各グループの意見結果

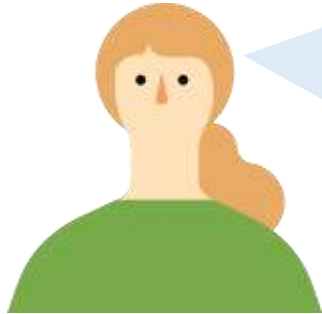
ローカルダイアログの結果取りまとめ

- ダイアログカードを使ってまちの現状について各グループで対話しカードに記載の問いに対してYES/NOを決めました。
(大項目、中項目は、ダイアログカードに記載の問いを分類したものになります。)
- 「YES」は強み、「NO」は今後の伸びしろになります。

大項目	中項目	小項目：ダイアログカード（各グループで対話し、YES/NOを決めたカード）	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
A まちと住民の well-being	1 住民の幸せ度	幸せだと感じている人が多いと思う	YES	YES	YES	NO
		心が安らげる時間を持つことができる場や機会があると感じている人が多いと思う	YES	NO	YES	NO
B 行政と住民の 協働のしやすさ	3 行政と住民の信頼度	行政職員（役所・役場）に頼りになる存在がいると思う	YES	NO	NO	NO
	4 行政と住民の連携度	行政の様々な取組みに何らかの形で参画している人が多いと思う	YES	NO	NO	NO
C 人と地域の つながりやすさ	5 地域間の 繋がり度	地域にサポートが必要な人（高齢・障害・単身など）がいるかどうかを把握できていると思う	NO	YES	YES	NO
		地域に頼れる人がいると感じている	NO	NO	NO	NO
D 暮らしやすさ	7 子育て 生涯教育	子育ての悩みを気軽に相談できる人がいると思う	NO	YES	NO	YES
		生涯学習や健康増進を行うための施設が充実していると思う（図書館、学習施設、スポーツ施設など）	YES	NO	YES	YES
	8 健康・医療	病気や高齢になっても暮らしやすい体制（医療・福祉・生活支援）が整っていると思う	YES	YES	NO	NO
		障害がある人となない人が共に交流したり、活動する場がある	YES	NO	NO	NO
		家族の介護に負担や苦痛を感じている人が少ないと思う	NO	NO	NO	NO
	9 交通	高齢者や障がい者にも暮らしやすいと思う	NO	NO	NO	NO
10 防災・安全	災害時に近隣と助け合う関係があると思う	NO	YES	YES	NO	
E 地域資源の豊かさ	11 産業（経済）	仕事や社会生活を含め、自分の持っている知識や技術を十分に発揮できる機会（場）があると思う	NO	NO	NO	YES
		希望する働き方（正社員、パート・アルバイト、自営、高齢就労）で働くことができる機会（場）があると思う	YES	NO	YES	NO

2-3 会話の記録

ビジョンカード



あいさつ程度だけでも関わったりできると何かあったときに助け合えるかなと感じた。



地域の方から声をかけてもらえる（出勤前で地域の方から手をかしていた）、幸せを感じられる。

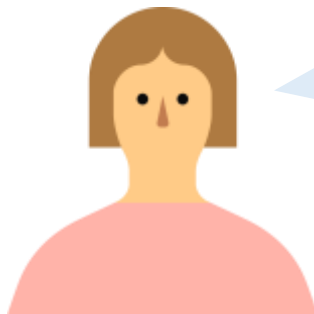
- 関わりやすい状況を市で作れたら良い。
- 本音でしゃべる機会を作りたい。
主体性を持って参加できる人を増やせるといい。
- 健常者も障害者も隔たりなく、生活ができたらいい
- 全部に目が届くような社会になったらいいな。
- どうしても高齢者に目が向きがちだが、どんな人にとっても平等であつたらいい。

2-3 会話の記録

ダイアログカード



友達、仲間、趣味、人とかかわりながら、自分の居場所があるように感じている。自分から求めていくとあると思う。



班長として近所の家に集金へ行くと、高齢の方は話をすごくしてきくるので、話を聞いてほしいんだと感じる。

- なかなか正社員になれない。非正規が多いと思う。
- 子育て世帯に選ばれているまちなのだと感じている。
- 息子が家にいる。息子自身が自分が障害者だと認めていないわけではいが、障がい者のくくりの場に行きたがらない。
- 団地の近くに住んでいて、地元の人同士のコミュニケーションが多い。いろんな人の話を聞くので、サポートが必要は人は把握できていると思う。
- 私は母子家庭なんですけど、母親が行政からのサポートがあると思うんですけど、いろいろ条件があって、十分にサポートがされない。自分でいろいろ調べて自力でやらないといけない。結局わからなくてできないということもある。行政からのサポート面が相談できる場面はあるかもしれないけど、相談しに行こうとはならない。そういうのを過程でよく見ていたので、気軽には相談ができないと思う。

2-4 当日の様子①



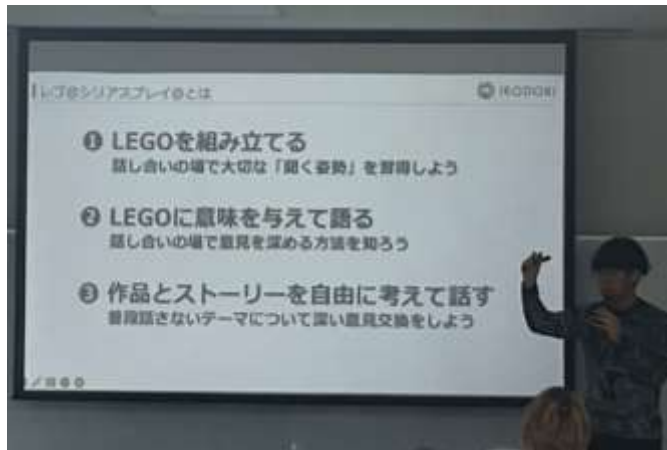
福祉部長の挨拶



レゴブロック組み立て中



グループで自己紹介



レゴ@シリアスプレイ@の説明



ローカルダイアログ①

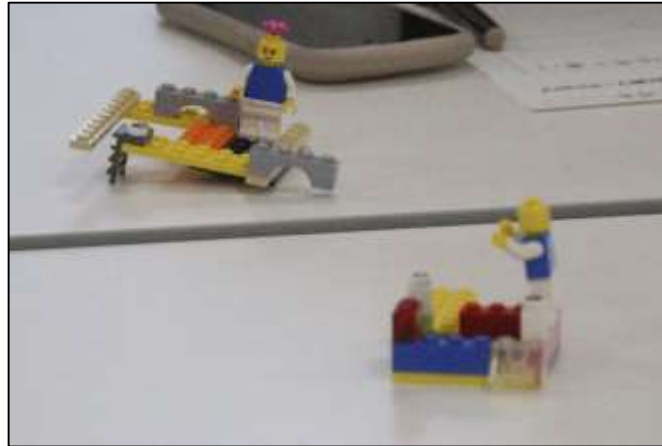


ローカルダイアログ②

2-4 当日の様子②



ローカルダイアログ③



持続可能な福祉をイメージしたブロック



グループでストーリーを共有①



グループでストーリーを共有②

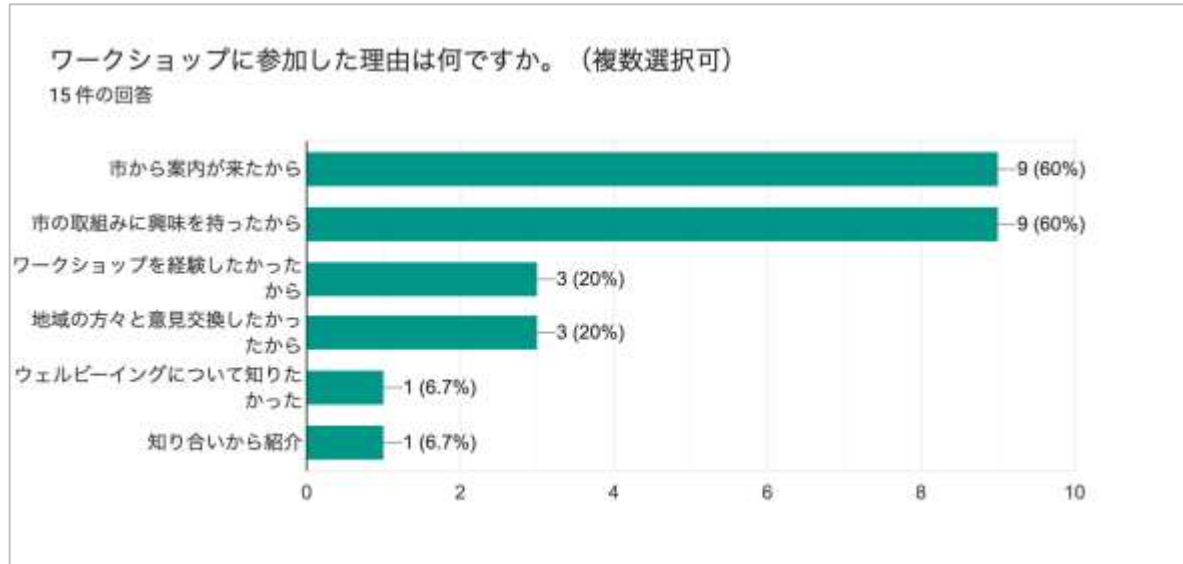
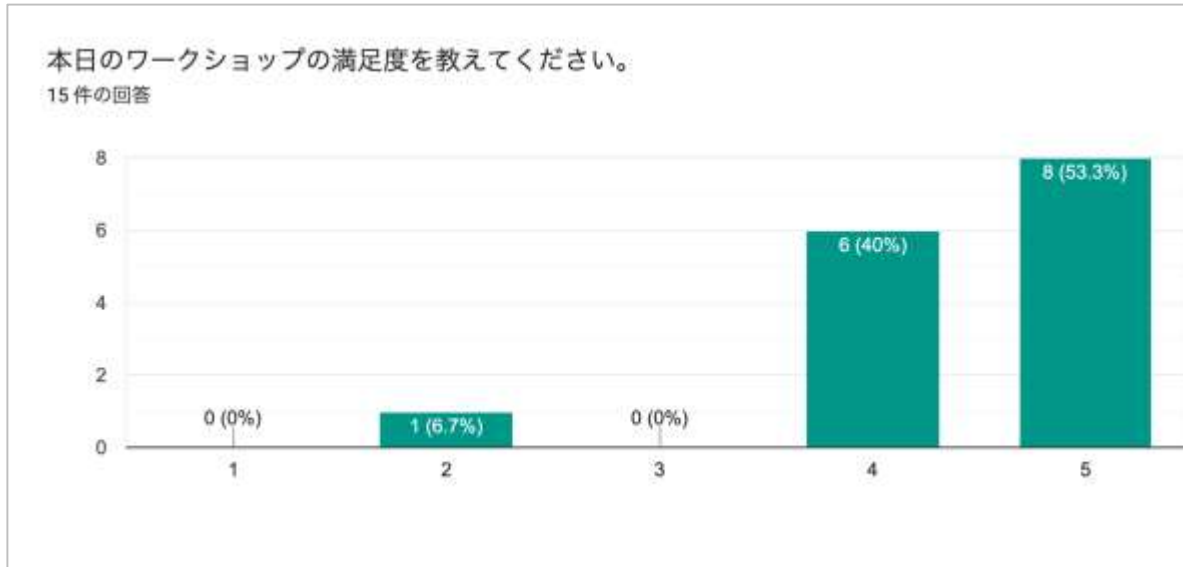


グループでストーリーを共有③



集合写真

2-5 参加者アンケート結果



本日のワークショップで印象に残ったことを教えてください。



レゴブロックやカードを用いた話し合いが印象的です。道具を用いた話し合いというものを想像できずにいたのですが、実践してみるとかなり楽しく、意見もわきあがってくるような方法であることを学びました。

グループのメンバーが最初に考えていた福祉の将来像は異なるものだったのに、ワークショップ後半でそれぞれが考えた福祉の在り方がひとつのストーリーとなつてつながったときに感動した。実際の福祉でも、さまざまな取組がひとつのストーリーになるといいな、と思った。

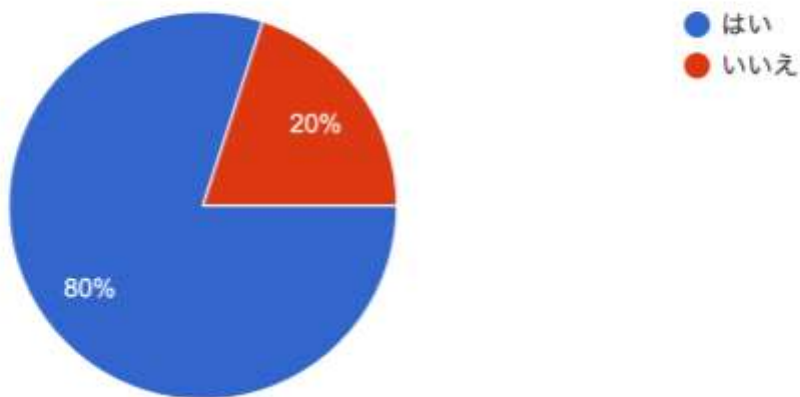


- 世代や経験が違ってても、地域のつながりが必要だという認識が共通していたこと。
- 市の担当の説明が非常に分かりやすく、改めて柏市の現状を認識できた。
- 同じグループになった方たちの考え方や見方を知ることができて、刺激になりました。レゴブロックで、自分の考えを表現するのは、おもしろいと思いました。

2-5 参加者アンケート結果

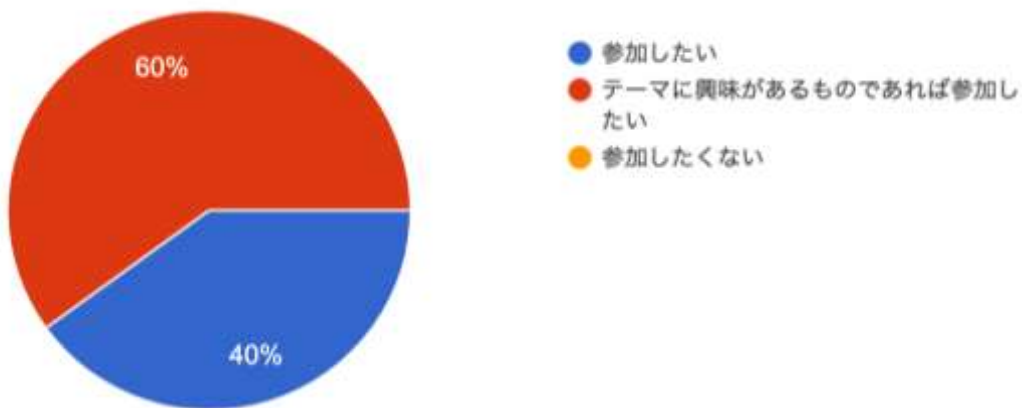
ワークショップの前後で、あなたにとって「福祉」のイメージは変わりましたか？

15件の回答



今後もこのような市が行う地域づくりの取組みに参加したいと思いますか。

15件の回答



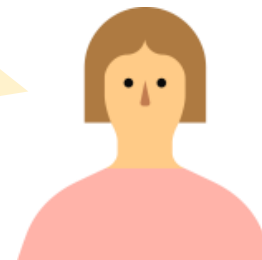
福祉のイメージがどう変わったか教えてください。

(「はい」と答えた方)



福祉は一方的なサポートだと思っていましたが、そうではなく、皆で作ってあげていくものだというイメージを今は抱いています。

最初は行政サービスをイメージしていたが、ワークショップ後は住民ひとりひとりの目配りや気遣いによって実現するものではないかと考えるようになった。



- 福祉って改めて弱者の人を助けるだけじゃなくて、みんなが関心を持って幸せになるみたいなことだなあと思った。
- これから生き抜く為にしっかり取り組む必要がある。高齢化はさけて通れない大きな課題である。
- 支える側、支えられる側という関係ではなく双方向な関係であるという考え方。
- 全ての人が、幸せに暮らしやすい社会を目指すことなのかなと思いました。でも、一言に福祉といっても、人によって考え方や見方がさまざま難しいテーマだと思いました。

2-3 ワークショップの関連資料

資料① 募集チラシ

市民アンケートへの同封、市のHP・X（旧Twitter）・市の公式LINE等でも発信。

**ウェルビーイングな
柏を共に考え、創る**

地域健康福祉計画
ワークショップ

1/21 Sun
9:30~12:30
9:00~受付開始

場所 ラコルタ柏4階集会所
千葉県柏市柏 5-8-12

柏市民の皆さんで楽しみながら
自分たちのまちについて考え、アイデアを共有し、
ありたい未来について語り合う場です。

地域健康福祉計画とは？
柏市は、誰もがその人らしく、住み慣れた地域で、共にいきいきと暮らせるまちづくりを目指しています。そのため市員・地域・柏市の地域の課題解決に向けて協働して取り組み、身近な文とあいの仕組みづくりを進めることを目的として策定し、推進します。

なにをやるの？
ワークショップでは、楽しみながらまちづくりについて対話するカードゲーム「ローカルダイアログ」や、自分の想いやアイデアを言葉にする「レゴ面シリアスプレイ」を使ったワークショップを行います。

参加するとどうなるの？
皆さんの視点で地域の健康福祉の仕組みづくりに活かされます。参加して終わり、ではなく興味を持ってくださった方には継続的に柏市のまちづくりに関わっていただきたいと思っています。

対象者
柏市在住のかた

お申し込み
右図からお申し込み
もしくはメールにて
お送りください▶▶▶

メールでお申し込みの場合
タイトルに「地域健康福祉計画ワークショップ参加希望」と記載のうえ、お名前、住所、電話番号、年齢、性別、返信先のメールアドレスを本文に記載してお送りください。
【送付先メールアドレス】
fukushiseikat@city.kashihara.chiba.jp

この機会にぜひご参加ください

運営 / 主催：柏市 福祉部 福祉政策課（問合せ 04-7167-1131）

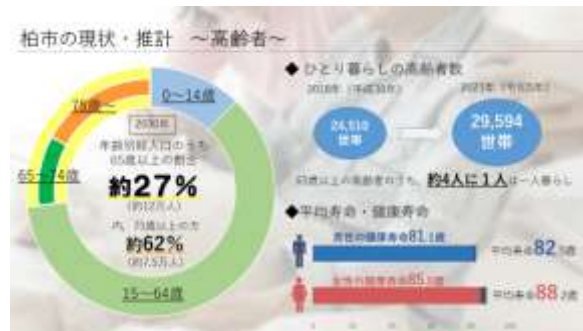
資料② 主旨説明用資料

柏市の現状や柏市の地域共生社会の在り方等の説明を行った。

地域健康福祉計画
市民ワークショップ

@ラコルタ柏4階集会所

令和6年1月21日(日)
柏市福祉部福祉政策課



計画概要

計画名	柏市地域健康福祉計画
計画内容	柏市の保健・医療・福祉分野の上位計画 柏市健康福祉に関する理念の提示や方向性を定めるための 基本福祉事業の観点から、高齢者、障害者、児童（子育て 支援）等の分野計画を内包した総合的な計画
策定年数	第1期を平成26年度に策定。 現在は、第3期（平成27年度から令和6年度までの10年間） 策定期として、令和7年度からの第4期の計画を策定中

